

## 【第2期中期目標期間（見込）評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	中期目標を上回っている	目標の達成状況が100%超
III	概ね中期目標どおり実施している	目標の達成状況が90%超100%以下
II	中期目標を下回っている	目標の達成状況が60%超90%以下
I	中期目標を大幅に下回っている	目標の達成状況が60%以下

## 公立大学法人岐阜県立看護大学

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
		自己評価理由、課題及びその改善策			
③	<p>(3) 学生の支援 ア 学修支援 (7) 学生の支援ニーズを個別的・集团的に把握し、支援ニーズにきめ細やかに対応する体制の充実を図る。</p> <p>(4) 学生の自主学修に適した図書館及び実習室等の学内環境の整備を行う。</p>	<p>学生の学修について、学生相談教員による個別指導や面接等により課題と支援ニーズを把握し、即応的な対応を行った。教授会の下に設置された学生相談教員部会は、学生生活委員会と協力して、毎年一・二次生全員に対して個別面談を実施し、学修支援が必要な者には教務委員会及び各看護学領域と協議して、継続的に学生を支援する体制を確立した。</p> <p>平成28年度及び令和元年度に学生生活実態調査（3年に1回実施）により、学生便覧やシラバスの電子化等学生の支援ニーズを集团的に把握し、教務委員会及び学生生活委員会において対応策を検討し実施した。</p> <p>図書・雑誌・視聴覚資料等の整備の基本方針を確認し、学生の自主学修に適した学内環境の整備を行った。図書約93,000冊（看護学・医学約47,000冊、一般約46,000冊）、雑誌約270種及び4種の有料データベースを整備するとともに、図書館に来館しなくても学生のデバイスからアクセスできる電子ジャーナル約2,000種及び動画配信約30タイトルを整備した。</p> <p>看護学実習室の備品更新計画を策定し、毎年度備品の劣化状態等を確認して更新計画を見直し、計画的且つ的確に購入を進め、学生の自主学修に適した学内環境を整備した。</p>	IV	<p><b>評価の検討</b></p> <p><b>IV→III</b> 看護師国家試験の合格率100%を目指して、遠隔教育システムのさらなる拡充など、学生への支援について一層の充実を図られたい。</p> <p><b>IVのまま</b> 遠隔教育システムの整備を進め、遠隔授業を本格的に開始しているが、新型コロナウイルス感染症への対応としても有用である。</p>	<p><b>III</b> 看護師国家試験の合格率100%を目指して、遠隔教育システムのさらなる拡充など、学生支援について一層の充実を図られたい。</p>

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証									
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)								
		自己評価理由、課題及びその改善策											
	<p>(ウ) 看護学研究科では、社会人学生の就学との有効な両立に向けて学修環境を整備する。</p> <p>イ 学生生活支援</p> <p>(7) 学生生活が豊かなものとなるように、自主的な課外活動等を支援する。</p> <p>(イ) 各種奨学金等の制度に関する学生の経済面の支援体制を充実させる。</p>	<p>看護学研究科では、学生との懇談会（集団面接）を定期的に行い、社会人学生のニーズを把握し、就業と両立できる対策を実施した。また、遠隔地の学生には利便性を高めるために、県内6施設と結んだテレビ会議システムの活用を促した。さらに、平成30年度から遠隔地から通学する全学生の遠隔授業を可能とするために遠隔教育システムの整備を進め、令和元年度から学生の要望に応じて遠隔授業を本格的に実施している。遠隔授業を行った学生の満足度は高く、職場在籍で学ぶ本学学生にとっては、時間的な負担を軽減する上でも有効であるため、学生のニーズを把握しながら遠隔授業を推進するとともに、機器の拡充を図る。</p> <p>学生の自主的な課外活動等を支援した。 学生生活委員会及び学生相談教員部会が中心となり、学務課と連携して、学生自治会活動、サークル活動、岐看祭、クリスマスコンサート及び地域活動を支援した。課外活動の全学的な活性化を図るために学年を超えた学生間の交流の機会を作るとともに、学生自治会との話し合いを通じて教員に相談しやすい関係づくりやサークル顧問会議を開催して教員側の支援体制の組織化を図った。</p> <p>各種奨学金等の制度に関する情報提供や相談受付等、学生の経済面の支援体制を充実させた。 本学独自の経済面の支援制度である授業料減免制度と給付型奨学金及び日本学生支援機構の奨学金等については、毎年度保護者同席のガイダンス及び学年別学生ガイダンスで周知し活用を図った。また、令和2年度から開始される国による高等教育修学支援新制度については、令和元年度に学生に広く周知し希望者に説明会を開催し申請を受け付けた。</p> <p>* 授業料減免制度による支援状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>セメスター</th> <th>減免の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">H28</td> <td>前期</td> <td>全額6人、半額1人</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額6人、半額1人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	セメスター	減免の人数	H28	前期	全額6人、半額1人	後期	全額6人、半額1人			
年度	セメスター	減免の人数											
H28	前期	全額6人、半額1人											
	後期	全額6人、半額1人											

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																																																																							
		業務実績、特筆すべき事項				自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																																																					
		自己評価理由、課題及びその改善策																																																																																											
		<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">H29</td> <td>前期</td> <td>全額5人、半額0人</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額5人、半額0人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H30</td> <td>前期</td> <td>全額5人、半額1人</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額6人、半額1人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">R1</td> <td>前期</td> <td>全額2人、半額4人</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>全額2人、半額4人</td> </tr> </table> <p>* 奨学金貸与者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>種類</th> <th>新規</th> <th>継続</th> <th>合計</th> <th>総計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">H28</td> <td>日本学生 支援機構 第一種</td> <td>11</td> <td>44</td> <td>55</td> <td rowspan="3">100人</td> </tr> <tr> <td>支援機構 第二種</td> <td>12</td> <td>30</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>岐阜県選奨奨生</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">H29</td> <td>日本学生 支援機構 第一種</td> <td>8</td> <td>39</td> <td>47</td> <td rowspan="3">96人</td> </tr> <tr> <td>支援機構 第二種</td> <td>15</td> <td>32</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>岐阜県選奨奨生</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">H30</td> <td>日本学生 支援機構 給付型</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td rowspan="4">87人</td> </tr> <tr> <td>支援機構 第一種</td> <td>12</td> <td>29</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>支援機構 第二種</td> <td>8</td> <td>34</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>岐阜県選奨奨生</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">R1</td> <td>日本学生 支援機構 給付型</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td rowspan="4">75人</td> </tr> <tr> <td>支援機構 第一種</td> <td>9</td> <td>29</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>支援機構 第二種</td> <td>8</td> <td>26</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>岐阜県選奨奨生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	H29	前期	全額5人、半額0人		後期	全額5人、半額0人	H30	前期	全額5人、半額1人		後期	全額6人、半額1人	R1	前期	全額2人、半額4人		後期	全額2人、半額4人	年度	種類	新規	継続	合計	総計	H28	日本学生 支援機構 第一種	11	44	55	100人	支援機構 第二種	12	30	42	岐阜県選奨奨生	0	3	3	H29	日本学生 支援機構 第一種	8	39	47	96人	支援機構 第二種	15	32	47	岐阜県選奨奨生	0	2	2	H30	日本学生 支援機構 給付型	2	0	2	87人	支援機構 第一種	12	29	41	支援機構 第二種	8	34	42	岐阜県選奨奨生	0	2	2	R1	日本学生 支援機構 給付型	1	2	3	75人	支援機構 第一種	9	29	38	支援機構 第二種	8	26	34	岐阜県選奨奨生	0	0	0			
H29	前期	全額5人、半額0人																																																																																											
	後期	全額5人、半額0人																																																																																											
H30	前期	全額5人、半額1人																																																																																											
	後期	全額6人、半額1人																																																																																											
R1	前期	全額2人、半額4人																																																																																											
	後期	全額2人、半額4人																																																																																											
年度	種類	新規	継続	合計	総計																																																																																								
H28	日本学生 支援機構 第一種	11	44	55	100人																																																																																								
	支援機構 第二種	12	30	42																																																																																									
	岐阜県選奨奨生	0	3	3																																																																																									
H29	日本学生 支援機構 第一種	8	39	47	96人																																																																																								
	支援機構 第二種	15	32	47																																																																																									
	岐阜県選奨奨生	0	2	2																																																																																									
H30	日本学生 支援機構 給付型	2	0	2	87人																																																																																								
	支援機構 第一種	12	29	41																																																																																									
	支援機構 第二種	8	34	42																																																																																									
	岐阜県選奨奨生	0	2	2																																																																																									
R1	日本学生 支援機構 給付型	1	2	3	75人																																																																																								
	支援機構 第一種	9	29	38																																																																																									
	支援機構 第二種	8	26	34																																																																																									
	岐阜県選奨奨生	0	0	0																																																																																									
(f) 学内外での生活における安全管理指導を実施し、学生各自の防犯対策を確実に導く。	<p>学生生活における安全管理指導を実施し、学生の防犯・安全対策の意識向上を図った。</p> <p>毎年一年次生を対象として防犯講習会、交通安全セミナー、若年消費者被害未然防止セミナー及び薬物乱用セミナー等の各セミナーを開催するとともに学生生活委員会が作成した「学生生活安全ガイド」を用いて各学年ガイダンスで安全な学生生活を送るための自己管理能力の向上を図った。また、入学時に貸与している防犯ブザーは卒業時に返還不要とし、活用を促した。</p>																																																																																												
(g) 学生の健康増進・予防に向けて健康に関する自己管理意識を向上させ、健康管理体制を整え	<p>学校保健安全法に基づく定期健康診断による健康管理・保健指導を毎年実施した。</p>																																																																																												

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																															
		業務実績、特筆すべき事項 自己評価理由、課題及びその改善策	自己 評価	論 点	検 証(案)																														
	る。  (ウ) 保健師、校医による学生への助言・指導体制、臨床心理士によるカウンセリングの実施、精神科顧問医による学生支援の助言体制を継続し充実を図る。  ウ 就職支援 (ア) 学生が主体的に進路を選択できるような環境を整える。	<p>4月に定期健康診断を実施し、その結果について学校医の助言に基づき保健師が全員に個別面談し結果を返して、学生の主体的な健康管理を促進するために健康相談や生活指導を実施する体制を継続した。要精検・要医療者には受診勧奨を行い、若年女性特有の健康問題をもつ等の要観察者には、主体的な健康管理を促すために健康相談や生活指導を実施した。また、毎年度健康管理年報を作成し、全教職員に配布して情報共有を図った。</p> <p>学生への助言・指導等の体制及び学生支援の助言体制を継続充実させた。</p> <p>学生の心身の問題に適切に対応するため、問題に応じて内科系非常勤医師(校医)及び精神科系非常勤医師(精神科顧問医)から定期的に助言を受けるとともに緊急時の電話相談により学生・保護者に対応した。また、心の問題については、カウンセリング専用室において、非常勤カウンセラーによる週1回のカウンセリングを継続実施した。</p> <p>* 非常勤カウンセラーによるカウンセリングの利用件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>17</td> <td>28</td> <td>49</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table> <p>看護職としての自身の将来像を主体的に描き、就職について具体的に考えられるようになった。</p> <p>在学者と看護師、保健師、助産師、養護教諭として働いている卒業生との交流会を毎年開催し、卒業生から進路選択や看護実践活動の実際を聴くことによって、学生が自身の将来を描き進路を考えられるようになった。</p> <p>就職ガイダンスは、学生の進路決定のプロセスの動向を見ながら調整を図りつつ、一年次から四年次までの計画を立てて実施している。</p> <p>* 県内医療施設による全体説明会参加状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者</td> <td>二・三年次生</td> <td>二・三年次生</td> <td>二・三年次生</td> <td>二・三年次生</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>94</td> <td>85</td> <td>123</td> <td>127</td> </tr> <tr> <td>医療機関数</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H28	H29	H30	R1	件数	17	28	49	42	年度	H28	H29	H30	R1	対象者	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生	参加者数	94	85	123	127	医療機関数	18	15	17	16			
年度	H28	H29	H30	R1																															
件数	17	28	49	42																															
年度	H28	H29	H30	R1																															
対象者	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生	二・三年次生																															
参加者数	94	85	123	127																															
医療機関数	18	15	17	16																															

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																																																			
		業務実績、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																																																																																	
		自己評価理由、課題及びその改善策																																																																																																																					
	<p>(イ) 専門分野（保健師・助産師・看護師・養護教諭など）に応じた進路・就職相談の支援を行う。</p> <p>保健師・助産師・看護師・養護教諭など専門分野に応じた進路・就職相談を実施した。</p> <p>教授会の下に看護師・保健師・助産師・養護教諭で構成する就職進路対策委員会を設置し、専門分野に応じた進路・就職相談ができる体制を継続した。また、四年次の卒業研究指導教員が個別に相談にのり、きめ細やかに支援することを継続した。</p> <p>第2期の4年間で、161名が県内に就職し、卒業生全体の52.8%を占めた。なお、平成12年に開学し、平成15年度の第1期卒業者以降、709名を県内に輩出し、地域貢献に繋がった。</p> <p>* 就職状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">出身</th> <th colspan="3">就職先 (人数)</th> <th colspan="2">就職先 (%)</th> </tr> <tr> <th>県内</th> <th>県外</th> <th>合計</th> <th>県内</th> <th>県外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">H28</td> <td>県内</td> <td>48</td> <td>32</td> <td>16</td> <td>48</td> <td>66.7%</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>31</td> <td>5</td> <td>26</td> <td>31</td> <td>16.1%</td> <td>83.9%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>79</td> <td>37</td> <td>42</td> <td>79</td> <td><b>46.8%</b></td> <td><b>53.2%</b></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">H29</td> <td>県内</td> <td>51</td> <td>39</td> <td>12</td> <td>51</td> <td>76.5%</td> <td>23.5%</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>28</td> <td>4</td> <td>24</td> <td>28</td> <td>14.3%</td> <td>85.7%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>79</td> <td>43</td> <td>36</td> <td>79</td> <td><b>54.4%</b></td> <td><b>45.6%</b></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">H30</td> <td>県内</td> <td>54</td> <td>39</td> <td>15</td> <td>54</td> <td>72.2%</td> <td>27.8%</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>16.7%</td> <td>83.3%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>78</td> <td>43</td> <td>35</td> <td>78</td> <td><b>55.1%</b></td> <td><b>44.9%</b></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">R1</td> <td>県内</td> <td>46</td> <td>35</td> <td>11</td> <td>46</td> <td>76.1%</td> <td>23.9%</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>23</td> <td>3</td> <td>20</td> <td>23</td> <td>13.0%</td> <td>87.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>69</td> <td>38</td> <td>31</td> <td>69</td> <td><b>55.1%</b></td> <td><b>44.9%</b></td> </tr> </tbody> </table> <p>令和元年度には、平成30年度の保健師国家試験不合格者を対象として、受験前の学習状況を確認し、次年度の受験を勧めるための面談を実施し、その結果を教員間で共有して学生指導を強化した。</p> <p>* 国家試験合格率（保健師）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験者数</td> <td>79</td> <td>79</td> <td>80</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>78</td> <td>71</td> <td>70</td> <td>74</td> </tr> </tbody> </table>		出身	就職先 (人数)			就職先 (%)		県内	県外	合計	県内	県外	H28	県内	48	32	16	48	66.7%	33.3%	県外	31	5	26	31	16.1%	83.9%	計	79	37	42	79	<b>46.8%</b>	<b>53.2%</b>	H29	県内	51	39	12	51	76.5%	23.5%	県外	28	4	24	28	14.3%	85.7%	計	79	43	36	79	<b>54.4%</b>	<b>45.6%</b>	H30	県内	54	39	15	54	72.2%	27.8%	県外	24	4	20	24	16.7%	83.3%	計	78	43	35	78	<b>55.1%</b>	<b>44.9%</b>	R1	県内	46	35	11	46	76.1%	23.9%	県外	23	3	20	23	13.0%	87.0%	計	69	38	31	69	<b>55.1%</b>	<b>44.9%</b>	年度	H28	H29	H30	R1	受験者数	79	79	80	76	合格者数	78	71	70	74			
	出身			就職先 (人数)			就職先 (%)																																																																																																																
		県内	県外	合計	県内	県外																																																																																																																	
H28	県内	48	32	16	48	66.7%	33.3%																																																																																																																
	県外	31	5	26	31	16.1%	83.9%																																																																																																																
	計	79	37	42	79	<b>46.8%</b>	<b>53.2%</b>																																																																																																																
H29	県内	51	39	12	51	76.5%	23.5%																																																																																																																
	県外	28	4	24	28	14.3%	85.7%																																																																																																																
	計	79	43	36	79	<b>54.4%</b>	<b>45.6%</b>																																																																																																																
H30	県内	54	39	15	54	72.2%	27.8%																																																																																																																
	県外	24	4	20	24	16.7%	83.3%																																																																																																																
	計	78	43	35	78	<b>55.1%</b>	<b>44.9%</b>																																																																																																																
R1	県内	46	35	11	46	76.1%	23.9%																																																																																																																
	県外	23	3	20	23	13.0%	87.0%																																																																																																																
	計	69	38	31	69	<b>55.1%</b>	<b>44.9%</b>																																																																																																																
年度	H28	H29	H30	R1																																																																																																																			
受験者数	79	79	80	76																																																																																																																			
合格者数	78	71	70	74																																																																																																																			

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証		
		業務実績、特筆すべき事項				自己 評価	論 点	検 証 (案)
		自己評価理由、課題及びその改善策						
		合格率	98.7%	89.9%	87.5%	97.4%		
		全国合格率	94.5%	85.6%	88.1%	96.3%		
		* 国家試験合格率 (看護師)						
		年度	H28	H29	H30	R1		
		受験者数	79	79	80	76		
		合格者数	79	79	79	71		
		合格率	100.0%	100.0%	98.8%	93.4%		
		全国合格率	94.3%	96.3%	94.7%	94.7%		
		* 国家試験合格率 (助産師)						
		年度	H28	H29	H30	R1		
		受験者数	4	6	6	6		
		合格者数	4	6	6	6		
		合格率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
		全国合格率	93.2%	99.4%	99.9%	99.5%		
⑧	<p>(1) 県内の看護サービスの質の向上に寄与する人材の供給</p> <p>ア 看護学研究科への実務看護職者の修学の促を図ると同時に、修了者等が取り組む職場での実践改革を支援する。</p>	<p>大学院看護学研究科博士前期課程は、本学が行う県内看護職者の生涯学習支援の中核であることから、県内看護職者が職場在籍のまま就学できる3年間の長期在学コースとして実施を継続している。県内看護職者は大卒看護職者と高等専門学校卒看護職者等多様な教育背景の看護職者で構成されていることから、大学院出願資格審査体制を整え、必要に応じて資格審査を受審できることとし、毎年度実施した。入学定員の全員が県内看護職者であり、3年間の学業を経て、毎年9～11人が修士の学位を取得して修了し、県内の保健医療福祉施設に戻り、看護実践の改善・改革に携わっている。</p> <p>平成28年度～令和元年度の4年間で、47人の大学院修了者(修士又は博士の学位取得者)を岐阜県内に輩出した(大学院開設後169人)。そのうち、専門看護師コースの修了者は修了後の看護実績を重ねて認定試験に合格し(5人、計16人)、これまでに専門看護師(慢性看護7人、小児看護3人、がん看護6人)の資格を取得した。大学院修了者の県内輩出及び専門看護師の堅実な増加により、岐阜県の看護のリーダーの育成に繋げることができた。</p>				III	<p>県内就職率60%を達成するために、一層努力されたい。</p>	

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																																
		業務実績、特筆すべき事項					自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																														
		自己評価理由、課題及びその改善策																																																																					
		<p>* 大学院修了者数 ( ) は、うち県内就業者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>～H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>博士前期課程</td> <td>111 (111)</td> <td>10 (10)</td> <td>9 (9)</td> <td>11 (11)</td> <td>11 (11)</td> <td>152 (152)</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程</td> <td>11 (11)</td> <td>1 (1)</td> <td>— (—)</td> <td>3 (3)</td> <td>2 (2)</td> <td>17 (17)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>122 (122)</td> <td>11 (11)</td> <td>9 (9)</td> <td>14 (14)</td> <td>13 (13)</td> <td>169 (169)</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 専門看護師資格取得者数 ( ) は、うち県内就業者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>～H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>慢性看護専門看護師</td> <td>4 (4)</td> <td>1 (1)</td> <td>— (—)</td> <td>1 (1)</td> <td>1 (1)</td> <td>7 (7)</td> </tr> <tr> <td>小児看護専門看護師</td> <td>3 (3)</td> <td>— (—)</td> <td>— (—)</td> <td>— (—)</td> <td>— (—)</td> <td>3 (3)</td> </tr> <tr> <td>がん看護専門看護師</td> <td>4 (4)</td> <td>2 (2)</td> <td>— (—)</td> <td>— (—)</td> <td>— (—)</td> <td>6 (6)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11 (11)</td> <td>3(3)</td> <td>0(0)</td> <td>1 (1)</td> <td>1 (1)</td> <td>16 (16)</td> </tr> </tbody> </table>					年度	～H27	H28	H29	H30	R1	計	博士前期課程	111 (111)	10 (10)	9 (9)	11 (11)	11 (11)	152 (152)	博士後期課程	11 (11)	1 (1)	— (—)	3 (3)	2 (2)	17 (17)	計	122 (122)	11 (11)	9 (9)	14 (14)	13 (13)	169 (169)	年度	～H27	H28	H29	H30	R1	計	慢性看護専門看護師	4 (4)	1 (1)	— (—)	1 (1)	1 (1)	7 (7)	小児看護専門看護師	3 (3)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	3 (3)	がん看護専門看護師	4 (4)	2 (2)	— (—)	— (—)	— (—)	6 (6)	計	11 (11)	3(3)	0(0)	1 (1)	1 (1)	16 (16)		
年度	～H27	H28	H29	H30	R1	計																																																																	
博士前期課程	111 (111)	10 (10)	9 (9)	11 (11)	11 (11)	152 (152)																																																																	
博士後期課程	11 (11)	1 (1)	— (—)	3 (3)	2 (2)	17 (17)																																																																	
計	122 (122)	11 (11)	9 (9)	14 (14)	13 (13)	169 (169)																																																																	
年度	～H27	H28	H29	H30	R1	計																																																																	
慢性看護専門看護師	4 (4)	1 (1)	— (—)	1 (1)	1 (1)	7 (7)																																																																	
小児看護専門看護師	3 (3)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	3 (3)																																																																	
がん看護専門看護師	4 (4)	2 (2)	— (—)	— (—)	— (—)	6 (6)																																																																	
計	11 (11)	3(3)	0(0)	1 (1)	1 (1)	16 (16)																																																																	
	<p>イ 県内施設での若年看護職の職場定着を促し、看護実践能力の向上に向けた研修等を推進する。</p> <p>ウ 就職選択の基本である学生の主体的意思決定を支援すると共に、以下のとおり県内就業支援を促進する。 (ア) 県内医療機関による就職ガイダンスの開催</p>	<p>新卒者交流会及び卒後2年目交流会を毎年度開催し、新任期の戸惑い・困難さ・課題等について意見交流し、看護実践を積み重ねることの重要性の認識を高める等職場定着を支援した。また、看護実践能力の向上に向けた研修会として、看護実践研究指導事業、共同研究事業、及び看護実践研究会学会学術集会を開催し、県内看護職が多彩な研修に参加できる環境を創生した。</p> <p>毎年度4月に、各学年における就職ガイダンスを開催し、学生自らが主体的に意思決定できる力を培った。県内看護職者の取り組みや卒業者の県内での活動実践の情報提供等を目的とし、「岐阜県医療施設等による就職ガイダンス」を毎年度開催し、</p>																																																																					

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																		
		業務実績、特筆すべき事項 自己評価理由、課題及びその改善策	自己 評価	論 点	検 証 (案)																	
	<p>等、学生が看護職や本学卒業者と直接ふれあう機会を県と協働で設け、県内医療機関で働くイメージを高める。</p> <p>(イ) 県及び諸機関と協働で特別講義等を企画・実施する体制を整え、学生が岐阜県の将来及び看護職の今後の可能性等について豊かなビジョンを描く機会とする。</p>	<p>県内医療機関から看護部長・卒業者の出席を得て全体説明会及び各施設単位の個別相談会を行った。当該説明会にて、本学卒業者が、各施設ブースでの相談・説明を担当するとともに、講堂での自施設の全体説明を担当するようになり（令和元年度：19人14施設、うち自施設の全体説明の担当者数16人）、これにより、県内医療機関の看護活動実践の情報提供と県内医療機関に就業している卒業者との交流が可能な体制を構築した。</p> <p>* 岐阜県医療施設等による就職ガイダンス 説明及び相談担当卒業者数・施設数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>全体説明・ブース相談担当卒業者数</th> <th>施設数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>20人</td> <td>13施設</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>24人</td> <td>16施設</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>21人</td> <td>14施設</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>19人（うち16人） *（ ）内は自施設の全体説明担当者数</td> <td>14施設</td> </tr> </tbody> </table>	年度	全体説明・ブース相談担当卒業者数	施設数	H28	20人	13施設	H29	24人	16施設	H30	21人	14施設	R1	19人（うち16人） *（ ）内は自施設の全体説明担当者数	14施設					
年度	全体説明・ブース相談担当卒業者数	施設数																				
H28	20人	13施設																				
H29	24人	16施設																				
H30	21人	14施設																				
R1	19人（うち16人） *（ ）内は自施設の全体説明担当者数	14施設																				
		<p>専門職者としての幅広い教養と専門職としての今後の可能性に関する特別講義として、毎年度企画し、講師を招聘し（下記）、岐阜県の文化と歴史あるいは現代の医療と看護等について学び、人間としての深い成長と看護職についての豊かなビジョンを描く機会とした。</p> <p>* 特別講義実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>テーマ</th> <th>講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>特別講義「羽島市の‘まちづくり’及び保健医療福祉について」</td> <td>松井聡（羽島市長）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H29</td> <td>特別講義「趣味と人生：クラシック音楽とヨーロッパの古典絵画」</td> <td>國枝敏郎（元岐阜県国際交流センター専務理事）</td> </tr> <tr> <td>特別講義「岐阜県の救急医療体制について」</td> <td>小倉真治（岐阜大学医学部 附属病院院長）</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>特別講義「岐阜県の歴史と街並み」</td> <td>富樫幸一（岐阜大学地域政策学科地域政策講座教授）</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>創立 20 周年記念特別講</td> <td>津田謹輔（京都大学名誉</td> </tr> </tbody> </table>	年度	テーマ	講師	H28	特別講義「羽島市の‘まちづくり’及び保健医療福祉について」	松井聡（羽島市長）	H29	特別講義「趣味と人生：クラシック音楽とヨーロッパの古典絵画」	國枝敏郎（元岐阜県国際交流センター専務理事）	特別講義「岐阜県の救急医療体制について」	小倉真治（岐阜大学医学部 附属病院院長）	H30	特別講義「岐阜県の歴史と街並み」	富樫幸一（岐阜大学地域政策学科地域政策講座教授）	R1	創立 20 周年記念特別講	津田謹輔（京都大学名誉			
年度	テーマ	講師																				
H28	特別講義「羽島市の‘まちづくり’及び保健医療福祉について」	松井聡（羽島市長）																				
H29	特別講義「趣味と人生：クラシック音楽とヨーロッパの古典絵画」	國枝敏郎（元岐阜県国際交流センター専務理事）																				
	特別講義「岐阜県の救急医療体制について」	小倉真治（岐阜大学医学部 附属病院院長）																				
H30	特別講義「岐阜県の歴史と街並み」	富樫幸一（岐阜大学地域政策学科地域政策講座教授）																				
R1	創立 20 周年記念特別講	津田謹輔（京都大学名誉																				

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証			
		業務実績、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)	
		自己評価理由、課題及びその改善策					
	<p>(ウ) 学生と県内に就職した卒業者（看護師・保健師・助産師・養護教諭）との交流会を開催し、卒業者の活躍を知ることにより、県内就職の魅力を知る機会とする。</p> <p>(エ) 一年次生の学外演習、三年次生の領域別実習及び四年次生の卒業研究を県内医療機関等において継続することにより、県内医療機関等への就職の動機付けを高める。</p>	<table border="1"> <tr> <td>義「健康長寿のための生活の知恵」</td> <td>教授、帝塚山学院大学学長)</td> </tr> </table> <p>在学生と卒業者の交流を一層推進するため、「卒業者と在学生との交流会」を毎年度開催し、県内就業の卒業者6～7人をシンポジストとして招聘し、本学講堂で二・三年次生参加のシンポジウム「職場の現状と働くことを通して捉えた看護」を行うとともに、シンポジウム後は職種別交流会を実施した。</p> <p>また、令和元年度は創立20周年の記念事業の一つとして実施し、本学の卒業者と大学院修了者をシンポジストとして招聘し、「卒業者・修了者の活動報告から本学の歩みを振り返る」をテーマに開催した。</p> <p>臨地実習は、県内保健医療福祉機関で行うことにより、学生が現場看護職の実践活動を見るとともに実際に体験することを通して、看護実践における基本的な考え方・姿勢を学び、看護に関わる理論的知識・技術を実際の実践活動と繋げ、さらに看護職としての将来の自己イメージを描くことができるようにしている。令和元年度は、一年次は学外演習（県内33施設39部署）、三年次は領域実習（県内106施設119部署）、四年次では卒業研究（県内39施設50部署）において学生は県内保健医療福祉機関で臨地実習を行った。</p>	義「健康長寿のための生活の知恵」	教授、帝塚山学院大学学長)			
義「健康長寿のための生活の知恵」	教授、帝塚山学院大学学長)						
⑨	<p>(2) 看護生涯学習支援の推進</p> <p>ア 大学院研究科を看護職者の生涯学習支援の中核機関として位置付け、現状改革のための看護実践研究能力と専門看護師を含めた高い技術能力の付与にかかわる多様な支援方法を実施する。</p>	<p>大学院研究科を県内看護職者の生涯学習支援の中核機関として位置づけ、大学院就学を支援し、博士前期課程において平成28年度10名、平成29年度11名、平成30年度13名、令和元年度7名、合計41名（累積総数181名）の入学者数、及び修了者数は、平成28年度10名、平成29年度9名、平成30年度11名、令和元年度11名に至った。</p> <p>本学大学院修了者の各専門性を踏まえ、令和元年度は看護学研究科の非常勤講師として13名（地域基礎看護学領域7名、機能看護学領域1名、育成期看護学領域4名、成熟期看護学領域1名）を招聘し、教育研究方法について支援した。専門看護師課程の修了者については、認定試験に向けた準備の支援を続け、4年間で5名（累積総数16名）が認定を受けた。</p>	IV	<p><b>評価の検討</b></p> <p><b>IV→III</b></p> <p>現状の支援にとどまらず、県内の看護の質向上に向けた支援の拡充を図りたい。</p> <p><b>IVのまま</b></p> <p>卒業後の看護師の教育的支援は看護レベルの向上に極めて大切であり、共同研究事業、看護実践研究指導事業を継続していただきたい。</p>	IV		

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																					
		業務実績、特筆すべき事項 自己評価理由、課題及びその改善策	自己 評価	論 点	検 証 (案)																				
		<p>また、修士論文の紀要への投稿を促進するために、指導教員は共著者として助言・指導を行い、その過程において看護実践研究の能力育成を継続支援した。修士論文は、平成28年度4論文、平成29年度4論文、平成30年度6論文、令和元年度3論文の4年間で合計17論文が、紀要の原著及び研究報告として掲載された。</p> <p>さらに、本学大学院研究科を修了した看護職者による現状改革のための看護実践研究能力向上のため、修了者が看護実践研究に取り組み、成果を発表する場として「看護実践研究学会」の創設を支援し(平成29年度～平成30年度)、令和元年度に第1回学術集会を9月に開催することが可能となった(学会参加者数148名)。「看護実践研究の芽生えから発展へ」をメインテーマとした「看護実践研究学会第1回学術集会」の内容は以下の通りである。</p> <p>* 看護実践研究学会第1回学術集会における開催内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>記念シンポジウム</td> <td>看護実践研究の芽生えから発展へ</td> </tr> <tr> <td>交流セッション1</td> <td>高齢者の食事介助：知識・技術とその責任</td> </tr> <tr> <td>交流セッション2</td> <td>看護実践現場の倫理的感受性を高める取り組み</td> </tr> <tr> <td>交流セッション3</td> <td>入退院支援エキスパート・ミーティング</td> </tr> <tr> <td>交流セッション4</td> <td>大学院修了後の看護実践研究の継続的取り組み</td> </tr> <tr> <td>交流セッション5</td> <td>保健師活動の充実をめざし、看護実践研究について語ろう！－看護実践研究に取り組むための現状と課題とは－</td> </tr> <tr> <td>一般演題報告演題1</td> <td>精神科スーパー救急病棟入院中の患者が看護師に伝えたい「こうありたい」という希望と実践されている看護</td> </tr> <tr> <td>一般演題報告演題2</td> <td>精神科病院における倫理事例カンファレンス定着への試み：倫理もやっとシート、JONSEN4 分割表を用いて</td> </tr> <tr> <td>一般演題報告演題3</td> <td>慢性期統合失調症患者の理解と看護：患者の欲求を見極めることを重視した看護介入の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>	種別	テーマ	記念シンポジウム	看護実践研究の芽生えから発展へ	交流セッション1	高齢者の食事介助：知識・技術とその責任	交流セッション2	看護実践現場の倫理的感受性を高める取り組み	交流セッション3	入退院支援エキスパート・ミーティング	交流セッション4	大学院修了後の看護実践研究の継続的取り組み	交流セッション5	保健師活動の充実をめざし、看護実践研究について語ろう！－看護実践研究に取り組むための現状と課題とは－	一般演題報告演題1	精神科スーパー救急病棟入院中の患者が看護師に伝えたい「こうありたい」という希望と実践されている看護	一般演題報告演題2	精神科病院における倫理事例カンファレンス定着への試み：倫理もやっとシート、JONSEN4 分割表を用いて	一般演題報告演題3	慢性期統合失調症患者の理解と看護：患者の欲求を見極めることを重視した看護介入の振り返り			
種別	テーマ																								
記念シンポジウム	看護実践研究の芽生えから発展へ																								
交流セッション1	高齢者の食事介助：知識・技術とその責任																								
交流セッション2	看護実践現場の倫理的感受性を高める取り組み																								
交流セッション3	入退院支援エキスパート・ミーティング																								
交流セッション4	大学院修了後の看護実践研究の継続的取り組み																								
交流セッション5	保健師活動の充実をめざし、看護実践研究について語ろう！－看護実践研究に取り組むための現状と課題とは－																								
一般演題報告演題1	精神科スーパー救急病棟入院中の患者が看護師に伝えたい「こうありたい」という希望と実践されている看護																								
一般演題報告演題2	精神科病院における倫理事例カンファレンス定着への試み：倫理もやっとシート、JONSEN4 分割表を用いて																								
一般演題報告演題3	慢性期統合失調症患者の理解と看護：患者の欲求を見極めることを重視した看護介入の振り返り																								

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証											
		業務実績、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)									
		自己評価理由、課題及びその改善策													
		<table border="1"> <tr> <td>一般演題報告演題 4</td> <td>地域包括ケア病棟における多職種で実施する退院前カンファレンスの現状分析と課題</td> </tr> <tr> <td>一般演題報告演題 5</td> <td>患者・家族の希望をかなえるターミナルケアを行うための課題の検討:介護療養病棟スタッフの思いに関する調査結果より</td> </tr> <tr> <td>一般演題報告演題 6</td> <td>勤労者看護推進への組織的取り組み:10年間の共同研究事業およびその後の発展プロセスの分析より</td> </tr> <tr> <td>一般演題報告演題 7</td> <td>機能看護学における看護実践研究の成果と課題</td> </tr> <tr> <td>看護実践研究学会 学術集会協賛企画</td> <td>「倫理調整の視野を広げよう!専門看護師領域を超えたCNSによる事例検討」(看護実践研究指導事業)</td> </tr> </table>	一般演題報告演題 4	地域包括ケア病棟における多職種で実施する退院前カンファレンスの現状分析と課題	一般演題報告演題 5	患者・家族の希望をかなえるターミナルケアを行うための課題の検討:介護療養病棟スタッフの思いに関する調査結果より	一般演題報告演題 6	勤労者看護推進への組織的取り組み:10年間の共同研究事業およびその後の発展プロセスの分析より	一般演題報告演題 7	機能看護学における看護実践研究の成果と課題	看護実践研究学会 学術集会協賛企画	「倫理調整の視野を広げよう!専門看護師領域を超えたCNSによる事例検討」(看護実践研究指導事業)			
一般演題報告演題 4	地域包括ケア病棟における多職種で実施する退院前カンファレンスの現状分析と課題														
一般演題報告演題 5	患者・家族の希望をかなえるターミナルケアを行うための課題の検討:介護療養病棟スタッフの思いに関する調査結果より														
一般演題報告演題 6	勤労者看護推進への組織的取り組み:10年間の共同研究事業およびその後の発展プロセスの分析より														
一般演題報告演題 7	機能看護学における看護実践研究の成果と課題														
看護実践研究学会 学術集会協賛企画	「倫理調整の視野を広げよう!専門看護師領域を超えたCNSによる事例検討」(看護実践研究指導事業)														
イ	共同研究事業と看護実践研究指導事業を通して、看護職者に対して改善・改革に自ら取り組むことの意義を伝え、自律的な姿勢と能力を高める活動を充実させる。また、その成果の公表を推進する。	<p>共同研究事業と看護実践研究指導事業を通して、県内看護職者に対して改善・改革に自ら取り組むことの意義を伝え、自律的な姿勢と能力を高める活動を実施した。共同研究事業は平成28年度～令和元年度の4年間で65課題、看護実践研究指導事業は延べ29課題を実施するとともに、改革・改善に自ら取り組む姿勢を基盤とした研究・研修を含め実施した。それぞれの成果を毎年度報告書に取りまとめ、ホームページ、岐阜県立看護大学リポジトリ等で公表を行った。</p>													
ウ	県内看護職者が取り組む「岐阜県看護実践研究交流会」の企画・運営等を支援する。	<p>平成28年度～平成30年度は、県内看護職者が取り組む「岐阜県看護実践研究交流会」の諸活動を毎年度支援し、交流会に関する広報、交流会役員会開催支援と資料作成、交流集会(9月)の開催支援・抄録集作成支援・報告書作成支援、交流集会開催状況報告書作成支援等を行った。また、岐阜県看護実践研究交流会会員への研究支援については、研究支援申請1課題に大学教員2名を支援担当とし、各研究課題の研究動機、看護実践上の課題を確認し、研究デザインの企画、研究プロセスの遂行、結果の公表等の支援を実施した。</p> <p>さらに、平成29年度～平成30年度においては、岐阜県看護実践研究交流会が「看護実践研究学会」に移行する支援を行い、令和元年度は、「看護実践研究学会」第1回学術集会開催の支援を行った。当該「看護実践研究学会」は看護実践研究の質</p>													

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																																														
		業務実績、特筆すべき事項				自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																												
		自己評価理由、課題及びその改善策																																																																		
		<p>向上と発展を目的とする学会であるとともに、本学大学院修了者が中核となって運営する組織となっている。</p> <p>* 岐阜県看護実践研究交流会主催の交流集会参加者数</p> <table border="1"> <tr><td>年度</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td></tr> <tr><td>看護職者</td><td>93</td><td>101</td><td>73</td></tr> <tr><td>教員</td><td>44</td><td>45</td><td>51</td></tr> <tr><td>学生</td><td>11</td><td>11</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>148</td><td>157</td><td>126</td></tr> </table> <p>* 看護実践研究学会参加者数</p> <table border="1"> <tr><td>年度</td><td>R1</td></tr> <tr><td>会員</td><td>94</td></tr> <tr><td>(うち県内)</td><td>86</td></tr> <tr><td>非会員</td><td>78</td></tr> <tr><td>(うち県内)</td><td>66</td></tr> <tr><td>学生</td><td>3</td></tr> <tr><td>合計</td><td>175</td></tr> </table> <p>* 研究支援の数</p> <table border="1"> <tr><td>年度</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><td>実施した課題数</td><td>17</td><td>13</td><td>8</td><td>7</td></tr> <tr><td rowspan="3">当該年度に 支援を開始 した課題</td><td>課題数</td><td>12</td><td>3</td><td>5</td><td>2</td></tr> <tr><td>施設数 (実数)</td><td>8</td><td>2</td><td>4</td><td>2</td></tr> <tr><td>対象者数 (延べ)</td><td>23</td><td>7</td><td>9</td><td>4</td></tr> </table>				年度	H28	H29	H30	看護職者	93	101	73	教員	44	45	51	学生	11	11	2	合計	148	157	126	年度	R1	会員	94	(うち県内)	86	非会員	78	(うち県内)	66	学生	3	合計	175	年度	H28	H29	H30	R1	実施した課題数	17	13	8	7	当該年度に 支援を開始 した課題	課題数	12	3	5	2	施設数 (実数)	8	2	4	2	対象者数 (延べ)	23	7	9	4			
年度	H28	H29	H30																																																																	
看護職者	93	101	73																																																																	
教員	44	45	51																																																																	
学生	11	11	2																																																																	
合計	148	157	126																																																																	
年度	R1																																																																			
会員	94																																																																			
(うち県内)	86																																																																			
非会員	78																																																																			
(うち県内)	66																																																																			
学生	3																																																																			
合計	175																																																																			
年度	H28	H29	H30	R1																																																																
実施した課題数	17	13	8	7																																																																
当該年度に 支援を開始 した課題	課題数	12	3	5	2																																																															
	施設数 (実数)	8	2	4	2																																																															
	対象者数 (延べ)	23	7	9	4																																																															
⑪	<p>(4) 県の看護政策への寄与 ア 県との連携を図り、県が実施する看護政策の展開について大学固有の方法で協力を行う。</p>	<p>県との連携を図り、県が実施する保健医療福祉政策等の効果的な展開について、大学固有の方法で協力を行うとともに、保健師、看護師、助産師及び養護教諭等の研修について、企画・運営・実施・評価に関する支援を行った。具体的には、下記3つの表に示すとおり、岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会や岐阜県福祉サービス第三者評価推進審議会等の各種委員に就任するとともに、医療的ケア専門研修や保健師現任研修等の各種研修について企画・運営等の支援、及び各研修会の講師派遣を行った。</p> <p>* 各種委員会委員状況 (岐阜県)</p> <table border="1"> <tr><td>委員会委員名</td><td>委員担当年度</td></tr> <tr><td>岐阜県公衆衛生研修会評</td><td>平成 28、29、30、令和元年度</td></tr> </table>				委員会委員名	委員担当年度	岐阜県公衆衛生研修会評	平成 28、29、30、令和元年度	IV	<p><b>評価の検討</b></p> <p><b>IV→III</b></p> <p>公立大学としての重要な役割であるため、より一層の努力をされたい。</p> <p><b>IVのまま</b></p> <p>県内保健師・看護師の量的及び質的充実看護政策上、重要な課題であり、さらなる県及び県内施設との連携をお願いしたい。</p>	<p><b>IV</b></p> <p>県内保健師・看護師の量的及び質的充実看護政策上、重要な課題であり、さらなる県及び県内施設との連携をお願いしたい。</p>																																																								
委員会委員名	委員担当年度																																																																			
岐阜県公衆衛生研修会評	平成 28、29、30、令和元年度																																																																			

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証		
		業務実績、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)
		自己評価理由、課題及びその改善策				
		議員				
		岐阜県がん診療連携拠点 病院支援協議会委員	平成 28、29、30、令和元年度			
		岐阜県准看護師試験委員	平成 28、29、30、令和元年度			
		ヘルスプランぎふ21 推進 会議委員	平成 28、29、30、令和元年度			
		岐阜県福祉サービス第三 者評価推進審議会委員	平成 28、29、30、令和元年度			
		岐阜県障害児通所給付費 等不服審査会委員	平成 28、29、30、令和元年度			
		岐阜県障害者介護給付費 等不服審査会委員	平成 28、29、30、令和元年度			
		岐阜県医療審議会委員	平成 28、29、30、令和元年度			
		岐阜県国民健康保険運営 協議会委員	平成 29、30、令和元年度			
		岐阜県介護保険施設等の 事故防止強化に向けた検 討会構成員	平成 30 年度			
		学校におけるがん教育推 進協議会委員	平成 30、令和元年度			
		清流の国ぎふ健康ポイン ト事業委託業務プロポー ザル評価会議構成員	令和元年度			
		日本看護学会学術集会抄 録選考委員 (岐阜県看護 協会)	平成 28、29 年度			
		岐阜看護学会論文選考委 員 (岐阜県看護協会)	平成 28、29 年度			
		岐阜看護学会委員会委員 (岐阜県看護協会)	平成 28、29、30、令和元年度			
		岐阜県学術集会準備委員 会委員 (岐阜県看護協会)	平成 28、29 年度			
		岐阜県看護協会定時総会 代議員 (岐阜県看護協会)	令和元年度			

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証		
		業務実績、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)
		自己評価理由、課題及びその改善策				
		訪問看護人材育成研修体制構築支援事業に向けた検討会の委員（岐阜県看護協会）	平成30年度			
		岐阜県市町村保健活動推進協議会保健師部会	平成30年度			
		医療的ケア運営協議会委員（岐阜県教育委員会）	令和元年度			
		産業保健相談員（岐阜県産業保健総合支援センター）	平成28、29、30年度			
		全国健康保険協会岐阜支部評議会評議員（全国健康保険協会岐阜支部）	平成30、令和元年度			
		* 各種研修会企画・実施状況（岐阜県）				
		研修名等	対象者等	期間		
		医療的ケア専門研修	特別支援学校の教員	平成28、29、30、令和元年度		
		保健室経営の充実	教員免許更新対象者	平成28年度		
		子どもの心と体の理解と対応		平成29、30、令和元年度		
		障がい児のからだに医療的ケアの理解		平成28、29、30、令和元年度		
		高齢者権利擁護推進に係る看護実務者研修	高齢者福祉施設看護職員	平成28、29、30、令和元年度		

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証		
		業務実績、特筆すべき事項			自己 評価	論 点	検 証 (案)
		自己評価理由、課題及びその改善策					
		保健師 現 任 研 修	新任者研修 新規採用の保健師 ＜県・市町村保健師＞  ステップア ップ研修 採用後5年目の保健師 ＜県・市町村保健師＞  中堅後期保 健師研修 実務経験年数 11～20 年程度の保健師 ＜県・市町村保健師＞  保健師指導 者研修 採用後5年目保健師の 指導保健師及び上席保 健師 ＜県・市町村保健師＞  保健師管理 者研修 管理的立場の保健師 ＜県・市町村保健師＞	平成 28、29、 30、令和元年 度  平成 28、29、 30、令和元年 度  平成 30 年度  平成 29、30 年 度  平成 28、29、 30 年度			
* 各種研修会等の講師派遣状況 (岐阜県)							
		研修名等	研修担当機関等				
		医療的ケア専門研修	岐阜県教育委員会教育研修課				
		高齢者権利擁護推進に係る看護実務者研修	岐阜県福祉総合相談センター				
		新任保健師研修	岐阜県保健医療課				
		保健師ステップアップ研修	岐阜県保健医療課				
		保健師指導者研修	岐阜県保健医療課				
		保健師管理者研修	岐阜県保健医療課				
		不登校対応講座	岐阜県教育委員会教育研修課				
		小中学校学校保健講習会	岐阜県教育委員会				
		総合教育センター講座	岐阜県教育委員会教員研修課				
		岐阜県訪問看護師養成講習会	岐阜県看護協会				
		看護職員再就職支援研修	岐阜県看護協会				
		認定看護管理者教育課程 (ファーストレベル)	岐阜県看護協会				
		認定看護管理者教育課程	岐阜県看護協会				

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																					
		業務実績、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)																			
		自己評価理由、課題及びその改善策																							
		<table border="1"> <tr> <td>(セカンドレベル)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>岐阜県保健師助産師看護師実習指導者講習会</td> <td>岐阜県看護協会</td> </tr> <tr> <td colspan="2">* 各種研修会の講師派遣状況 (岐阜県市町村)</td> </tr> <tr> <td>研修名等</td> <td>研修担当機関等</td> </tr> <tr> <td>岐阜県小中学校教育研究会 養老町保健教育部会・ 養護教諭部会合同研究会</td> <td>養老町 (養老郡支部長)</td> </tr> <tr> <td>岐阜県小中学校教育研究会 大垣支部・養護教諭部 会研究会</td> <td>大垣市</td> </tr> <tr> <td>中濃地区高等学校・特別 支援学校保健担当者研修 会</td> <td>美濃加茂市</td> </tr> <tr> <td>保健活動実践報告会開催 に伴う事例選考 助言者</td> <td>海津市 (岐阜県市町村保健活動 推進協議会保健師部会長)</td> </tr> <tr> <td>保健活動実践報告会</td> <td>海津市 (岐阜県市町村保健活動 推進協議会保健師部会長)</td> </tr> <tr> <td>アサーショントレーニング 研修会</td> <td>岐阜市民病院</td> </tr> </table>	(セカンドレベル)		岐阜県保健師助産師看護師実習指導者講習会	岐阜県看護協会	* 各種研修会の講師派遣状況 (岐阜県市町村)		研修名等	研修担当機関等	岐阜県小中学校教育研究会 養老町保健教育部会・ 養護教諭部会合同研究会	養老町 (養老郡支部長)	岐阜県小中学校教育研究会 大垣支部・養護教諭部 会研究会	大垣市	中濃地区高等学校・特別 支援学校保健担当者研修 会	美濃加茂市	保健活動実践報告会開催 に伴う事例選考 助言者	海津市 (岐阜県市町村保健活動 推進協議会保健師部会長)	保健活動実践報告会	海津市 (岐阜県市町村保健活動 推進協議会保健師部会長)	アサーショントレーニング 研修会	岐阜市民病院			
(セカンドレベル)																									
岐阜県保健師助産師看護師実習指導者講習会	岐阜県看護協会																								
* 各種研修会の講師派遣状況 (岐阜県市町村)																									
研修名等	研修担当機関等																								
岐阜県小中学校教育研究会 養老町保健教育部会・ 養護教諭部会合同研究会	養老町 (養老郡支部長)																								
岐阜県小中学校教育研究会 大垣支部・養護教諭部 会研究会	大垣市																								
中濃地区高等学校・特別 支援学校保健担当者研修 会	美濃加茂市																								
保健活動実践報告会開催 に伴う事例選考 助言者	海津市 (岐阜県市町村保健活動 推進協議会保健師部会長)																								
保健活動実践報告会	海津市 (岐阜県市町村保健活動 推進協議会保健師部会長)																								
アサーショントレーニング 研修会	岐阜市民病院																								
	<p>イ 大学の有する知的資源や人材を活用し、看護実践の改善に係る課題解決に向けた取組みを推進するなど、岐阜県の看護に関するシンクタンクの役割を果たし、岐阜県の看護の魅力の一層の向上に貢献する。</p>	<p>看護実践研究指導事業のうち「利用者ニーズを基盤にした入院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援」は、入院支援を視野に入れて、県医療福祉連携推進課と連携して行った。入院支援における看護職者への教育支援のニーズは高く、平成28年度から令和元年度において、県内医療機関からベーシック研修に289名(累積総数633名)、フォローアップ研修に199名(累積総数294名)、及びアドバンス研修に56名(累積総数56名、平成28年度から開始)の参加があり、修了証は各研修参加者全員に付与した(4年間の研修全体で544名の参加があり、累積総数983名に達した)。当該取組みについては、本学紀要特別号「岐阜県立看護大学における教育研究活動及び地域貢献活動のオリジナリティ:「岐阜モデル」の構築とその発</p>																							

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																						
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証(案)																					
		自己評価理由、課題及びその改善策																								
		<p>展的継続による質の重厚性」における「Ⅲ. 地域貢献活動におけるオリジナリティ」の中の「利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援」として平成16年(2004年)からの16年間の内容を取りまとめ、活動が発展的に継承される基盤を強化した。</p> <p>また、岐阜県の各種研修会において講師を派遣するとともに、岐阜県看護協会・県内外の市町村における各種協議会等の委員及び講師の派遣を行った。</p>																								
⑬	<p>(2) 教員の能力向上</p> <p>ア 本学の理念と目標に沿った教員育成するために、計画的にファカルティ・ディベロップメント等を実施する。</p>	<p>本学の理念と目標に沿った教員育成をするために、FD活動等を毎年度企画・実施した。</p> <p>年度当初に教員の要望の確認から開始することで、教員個々が主体的にFD活動を創る体制を構築するとともに、FD委員会と他委員会等が柔軟に協働して研修会等の開催を企画する仕組みとして実施した(下記表:FD研修会開催状況)。</p> <p>また、現場看護職と協働した教育体制強化のために、実習施設の看護職を含めたFDとして、領域実習及び卒業研究の実習等終了後に、学生の学びに関する現状と課題に関する資料を作成し、当該資料を素材として教員と各施設看護責任者・実習指導看護職で実習における学生の学びについて意見交換を行う体制を整え実施した(毎年度延べ142~148施設と意見交換会を実施)。</p> <p>* FD研修会開催状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">FD研修会テーマ</th> <th>参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">H28</td> <td>1</td> <td>平成27年度 学外交流報告会</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>外部研究資金応募に向けた研修会 (参加者数限定)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>共同研究事業の今後の発展とあり方を考える研修会(看護研究センターとの共同企画)</td> <td>92%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学位授与方針(ディプロマポリシー)と授業科目との関連を考える研修会(教務委員会との共同企画)</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1</td> <td>学位授与方針(ディプロマポリシー)</td> <td>92%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	FD研修会テーマ		参加率	H28	1	平成27年度 学外交流報告会	85%	2	外部研究資金応募に向けた研修会 (参加者数限定)	100%	3	共同研究事業の今後の発展とあり方を考える研修会(看護研究センターとの共同企画)	92%	4	学位授与方針(ディプロマポリシー)と授業科目との関連を考える研修会(教務委員会との共同企画)	96%	H29	1	学位授与方針(ディプロマポリシー)	92%	IV	<p><b>評価の検討</b></p> <p><b>Ⅳ→Ⅲ</b></p> <p>FDを計画的に実施したこととまっとうしており、計画以上の実施をしているとは考えにくい。</p> <p><b>Ⅳのまま</b></p> <p>FD研修会の充実によって、他大学との学術交流も図られている。</p>	<p><b>Ⅳ</b></p> <p>FD研修会の充実によって、他大学との学術交流も図られている。</p>
年度	FD研修会テーマ		参加率																							
H28	1	平成27年度 学外交流報告会	85%																							
	2	外部研究資金応募に向けた研修会 (参加者数限定)	100%																							
	3	共同研究事業の今後の発展とあり方を考える研修会(看護研究センターとの共同企画)	92%																							
	4	学位授与方針(ディプロマポリシー)と授業科目との関連を考える研修会(教務委員会との共同企画)	96%																							
H29	1	学位授与方針(ディプロマポリシー)	92%																							

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証	
		業務実績、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)
		自己評価理由、課題及びその改善策				
			と教育活動との関連を考える研修会 ～学生の特徴を考慮した教育の工夫 ～ (教務委員会との共同企画)			
			2 外部研究資金応募に向けた研修会 (参加者数限定)	100%		
			3 看護実践研究指導事業のこれからを 考える研修会 (看護研究センターと の共同企画)	92%		
			4 学外交流報告：“地域貢献活動”をテ ーマとした長野県看護大学との交流	90%		
		H30	1 成績評価のあり方を考える研修会 (教務委員会との共同企画)	98%		
			2 外部研究資金応募に向けた研修会 (参加者数限定)	100%		
			3 大学の内部質保証に関する研修会 (総務企画課との共同企画)	FD:97% SD:100 %		
			4 看護実践研究指導事業のこれからを 考える研修会 その2 (看護研究セ ンターとの共同企画)	93%		
			5 学生生活支援の方法の検討と共有に 向けた研修会 (学生生活委員会、総 務企画課との共同企画)	FD:97% SD:100 %		
		R1	1 外部研究資金応募に向けた研修会 (参加者数限定)	100%		
			2 共同研究事業の課題解決に向けた具 体的方策を考える研修会 (看護研究 センター・研究交流促進部会との共 同企画)	90%		
			3 学士課程教育の充実に向けた研修会 ーDPを担保する段階的到達目標の 明確化ー (教務委員会との共同企画)	94%		
			4 F D学外交流報告会	中止		
			5 学生の主体的な学びを支援する学習	中止		

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																
		業務実績、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)														
		自己評価理由、課題及びその改善策																		
	イ 看護系大学の将来を見通した教員育成をするために、国内諸大学との学術交流を含むファカルティ・ディベロップメント等を実施する。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>環境に関する研修会（図書館運営委員会・総務企画課との共同企画）</td> <td></td> </tr> </table>		環境に関する研修会（図書館運営委員会・総務企画課との共同企画）																
	環境に関する研修会（図書館運営委員会・総務企画課との共同企画）																			
		<p>看護系大学の将来を見通した教員育成のための国内諸大学との学術交流は、隔年で企画し実施を続けた。平成28年度は、平成27年度に実施した「沖縄県立看護大学との学術交流」について学部教育及び大学院教育の特徴等に関する交流内容の報告会を開催し、教員全体で共有した。平成29年度は、「地域貢献活動」に関する学術交流を長野県看護大学と行い、「“地域貢献活動”をテーマとした長野県看護大学との交流」に関する報告会を開催した。また、平成30年度は次年度の国内大学との学術交流の企画を行い、本学と同様に、看護学部看護学科、大学院看護学研究科博士前期課程及び博士後期課程を有する公立大学の中から看護実践を基盤として教育研究活動を行っており、かつ大学固有の学会を組織化している大学に関する情報収集を行い、訪問する大学について検討し、令和元年度に「公立大学における地域貢献活動及び大学が参画する学会運営・活動」をテーマに名古屋市立大学看護学部との学外交流を行った。</p> <p>* 学術交流・FDテーマ及び学術交流大学</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>学術交流テーマ&amp;FDテーマ</th> <th>学術交流大学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>FD:「沖縄県立看護大学との学術交流」報告会</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">H29</td> <td>学術交流:“県立大学”が行う地域貢献</td> <td>長野県看護大学</td> </tr> <tr> <td>FD:「“地域貢献活動”をテーマとした長野県看護大学との交流」</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">R1</td> <td>学術交流:公立大学における地域貢献活動&amp;大学が参画する学会運営・活動</td> <td>名古屋市立大学看護学部</td> </tr> <tr> <td>FD:「看護実践研究センターの活動及びびなごや看護学会について」(令和2年3月予定、感染症対応のため中止)</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	学術交流テーマ&FDテーマ	学術交流大学	H28	FD:「沖縄県立看護大学との学術交流」報告会	—	H29	学術交流:“県立大学”が行う地域貢献	長野県看護大学	FD:「“地域貢献活動”をテーマとした長野県看護大学との交流」	—	R1	学術交流:公立大学における地域貢献活動&大学が参画する学会運営・活動	名古屋市立大学看護学部	FD:「看護実践研究センターの活動及びびなごや看護学会について」(令和2年3月予定、感染症対応のため中止)	—		
年度	学術交流テーマ&FDテーマ	学術交流大学																		
H28	FD:「沖縄県立看護大学との学術交流」報告会	—																		
H29	学術交流:“県立大学”が行う地域貢献	長野県看護大学																		
	FD:「“地域貢献活動”をテーマとした長野県看護大学との交流」	—																		
R1	学術交流:公立大学における地域貢献活動&大学が参画する学会運営・活動	名古屋市立大学看護学部																		
	FD:「看護実践研究センターの活動及びびなごや看護学会について」(令和2年3月予定、感染症対応のため中止)	—																		

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
		自己評価理由、課題及びその改善策			
⑰	<p>(2) 外部意見の反映 ア 学外の有識者や専門家を理事、経営審議会委員及び教育研究審議会委員に登用する。</p> <p>イ 県内の看護職の意見や現場における課題等を把握し大学運営に活用する。</p>	<p>役員（理事・監事）、経営審議会委員及び教育研究審議会委員に学外者の登用を図ることにより、法人及び大学運営の諸課題について意見を拝聴し、大学運営に役立てた。</p> <p>また、令和元年度に県に対して、法人の経営力の強化を図る観点から、学外理事を増員するため、法人定款の変更の申し出を行った。</p> <p>＊ 学外者数（令和2年3月末時点） 理事（1名／4名）・監事（2名／2名）・経営審議会委員（4名／7名）・教育研究審議会委員（1名／7名）</p> <p>県関係者、県内看護職者を委員とする「看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会」を継続して開催し、魅力ある看護活動や人材育成のための取組みについて意見交換・連携を行った。</p>	III		<p>学外理事がどのような人材であり、登用することで具体的にどのような効果があるのか示されたい。</p>
⑱	<p>(1) 人材の確保 ア 教員 (7) 優れた資質を有する教員の確保及び維持のため、教員が自己の力を発揮できるように、教育研究環境を充実させる。</p> <p>(イ) 大学の教育理念が達成できるよう、教員確保のための対策を講じる。また、育児休業や欠員等に対する期間限定の任期付雇用制度等を活用する。</p> <p>イ 事務職員 社会人採用枠等を含む事務職員プロパー化計画に基づき、事務職員を順次採用する。</p>	<p>平成28年度に、教員用デスクトップパソコンを更新するなど教育研究環境を改善するとともに、教育研究の遂行に必要な能力の向上や看護の見識を広めるため、教員自らが目標を定めて一定の期間にわたり主に研究活動を行う研修（サバティカル研修）制度を試行し、平成30年度から教員2名の研修を実施した。</p> <p>教員確保のために職員宿舍の低高木の剪定、除草作業などの定期的な管理に加え、台風の影響で破損したベランダの隔て板の修繕や共用部分電気系統の調査を行い、住環境の整備に努めた。</p> <p>また、新たに教員宿舍の運営方針を定め、宿舍の維持管理について、法人が主体的に行った。</p> <p>加えて、育児休業を取得する教員が増加する状況の中、任期付教員の雇用制度を継続し、教育体制の確保に努めた。</p> <p>令和2年度の事務職員プロパー化計画達成に向けて、計画的に採用試験を実施し、年齢構成を考慮した採用を行った。</p>			<p>事務職員のプロパー化に向け計画的に取り組まれていることは評価できる。</p>

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																											
		業務実績、特筆すべき事項				自己 評価	論 点	検 証 (案)																									
		自己評価理由、課題及びその改善策																															
		<p>文部科学省から学校施設の維持管理の徹底が求められる中で、施設を健全な状態で維持管理するため、平成30年度に設立団体（県）に事務職員の定数増を要求し、建築系職員の採用を行った。</p> <p>* 職員の内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事務職員</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>プロパー職員</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>司書</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>プロパー職員</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>				年度	H28	H29	H30	R1	事務職員	12	12	12	13	プロパー職員	6	7	9	11	司書	2	2	2	2	プロパー職員	2	2	2	2			
年度	H28	H29	H30	R1																													
事務職員	12	12	12	13																													
プロパー職員	6	7	9	11																													
司書	2	2	2	2																													
プロパー職員	2	2	2	2																													
②4	<p>(2) 自己収入の確保</p> <p>ア 文部科学省科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた申請を積極的に行う。</p> <p>イ 学外者に対し、教育研究に支障のない方法で施設等を実費など適正な料金で開放する。</p>	<p>文部科学省科学研究費補助金等の獲得に向けて申請を積極的に行った。さらに外部資金応募に向けた研修会の実施、学長及び学部長による申請書の指導及び助言の機会を設けるなど、採択率の向上にも努めた。</p> <p>また、入手した外部資金の公募情報を、随時メールで教員に周知するとともに、公募情報の一覧を作成して共有サーバーに掲示し、公募情報の共有を図った。</p> <p>* 科学研究費補助金新規応募件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H30は年度末退職者2名を含む。</p> <p>自己収入確保のための取組みとして、教育、研究活動に影響のない範囲で、地域のスポーツ団体などに講堂、講義室、演習室、体育施設等の本学施設の貸し出しを行った。</p> <p>* 施設使用料収入（単位：円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>899,800</td> <td>891,600</td> <td>713,450</td> <td>633,050</td> </tr> </tbody> </table>				H28	H29	H30	R1	5	8	9	6	H28	H29	H30	R1	899,800	891,600	713,450	633,050			<p>科研費等の外部資金の確保に向けた支援や取組みを充実させたい。</p>									
H28	H29	H30	R1																														
5	8	9	6																														
H28	H29	H30	R1																														
899,800	891,600	713,450	633,050																														
②7	<p>1 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 毎年度末に、自己点検・評価結果に基づく</p>	<p>毎年度末に各領域・委員会・会議単位で現状、点検評価、改</p>						<p>認証評価機関からの努力課題について改善を図られている。</p>																									

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																														
		業務実績、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																													
		自己評価理由、課題及びその改善策																																																
	<p>改善措置を計画し、次年度の取組みとして推進する。また、当該自己点検・評価を基盤に、計画立案、実施、中間評価、継続実施、全体評価等から構成される内部質保証体制の充実を図る。</p> <p>(2) 定期的に、外部機関による認証評価を受ける。</p>	<p>善・改革に向けた方策等について自己点検評価を行い、翌年度の取組みに繋げる仕組みを明確化した。</p> <p>大学においては自己点検評価委員会、法人においては自己点検評価部会でそれぞれ教育研究又は法人運営に係る自己点検評価を行い、報告書を取り纏めて全教員に配付した。</p> <p>また、平成30年度には（公財）大学基準協会から講師を招聘し、全職員を対象に内部質保証に関する研修会を実施し、内部質保証に関する大学全体の理解を深めた。</p> <p>平成29年度に（公財）大学基準協会による大学評価を受審し、平成30年4月1日付で大学基準に適合していると認定された。評価結果については、大学のホームページにて公表した。</p> <p>なお、努力課題として指摘を受けた事項に関しては、大学院のアドミッション・ポリシーの策定、大学院修士論文・課題研究レポートの審査基準の制定により改善を図った。</p>																																																
29	<p>1 施設・設備の整備、活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 本学の理念と目標に向けた蔵書計画を策定し、図書館の蔵書充実を図る。</p>	<p>教員選書を中心に、職員・看護学科・看護学研究科の学生等からの購入リクエスト、司書選書などにより蔵書の充実を図った。</p> <p>書庫スペース確保のため、旧版複本などを中心に図書の除籍を進めるとともに、洋雑誌については電子ジャーナルへの移行を進め、利便性の向上を図った。</p> <p>* 図書の蔵書冊数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書蔵書 (冊)</td> <td>88,621</td> <td>90,461</td> <td>91,601</td> <td>92,829</td> </tr> <tr> <td>うち洋書</td> <td>6,445</td> <td>6,543</td> <td>6,583</td> <td>6,603</td> </tr> <tr> <td>うち看護学書</td> <td>19,097</td> <td>19,602</td> <td>19,470</td> <td>19,794</td> </tr> <tr> <td>うち医学書</td> <td>25,790</td> <td>26,604</td> <td>27,445</td> <td>27,525</td> </tr> <tr> <td>うち一般書</td> <td>43,734</td> <td>44,255</td> <td>44,686</td> <td>45,510</td> </tr> <tr> <td>視聴覚資料 (点)</td> <td>2,733</td> <td>2,794</td> <td>2,832</td> <td>2,846</td> </tr> <tr> <td>購入雑誌受入 (種)</td> <td>314</td> <td>306</td> <td>304</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>うち和雑誌</td> <td>261</td> <td>254</td> <td>253</td> <td>240</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H28	H29	H30	R1	図書蔵書 (冊)	88,621	90,461	91,601	92,829	うち洋書	6,445	6,543	6,583	6,603	うち看護学書	19,097	19,602	19,470	19,794	うち医学書	25,790	26,604	27,445	27,525	うち一般書	43,734	44,255	44,686	45,510	視聴覚資料 (点)	2,733	2,794	2,832	2,846	購入雑誌受入 (種)	314	306	304	270	うち和雑誌	261	254	253	240			<p>図書の計画的な除籍と、電子ジャーナルへの移行など、適切に図書を整備されている。</p>
項目	H28	H29	H30	R1																																														
図書蔵書 (冊)	88,621	90,461	91,601	92,829																																														
うち洋書	6,445	6,543	6,583	6,603																																														
うち看護学書	19,097	19,602	19,470	19,794																																														
うち医学書	25,790	26,604	27,445	27,525																																														
うち一般書	43,734	44,255	44,686	45,510																																														
視聴覚資料 (点)	2,733	2,794	2,832	2,846																																														
購入雑誌受入 (種)	314	306	304	270																																														
うち和雑誌	261	254	253	240																																														

項目 番号	中期計画	中期目標期間に係る中期計画の業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証												
		業務実績、特筆すべき事項				自己 評価	論 点	検 証 (案)										
		自己評価理由、課題及びその改善策																
	<p>(2) 施設の整備については、常時点検を推進し、随時、中長期計画の見直しを図る。</p> <p>(3) 施設、設備等の適切な維持管理を行い、有効な活用を図る。</p>	<table border="1"> <tr> <td>うち洋雑誌</td> <td>53</td> <td>52</td> <td>51</td> <td>30</td> </tr> </table> <p>* 電子ジャーナルの数</p> <table border="1"> <tr> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> </tr> <tr> <td>61</td> <td>66</td> <td>62</td> <td>2,108</td> </tr> </table> <p>※R1よりアグリゲーター系電子ジャーナル(2,040)を含む。</p> <p>定期的な大学施設・設備の点検を行うことで、修繕が必要となる箇所の把握に努めた。把握した要修繕箇所については、平成27年度に策定した第2次中期維持修繕計画に反映させ、令和元年度に当該計画を更新した。</p> <p>大学設立から20年が経過し、不具合が生じている施設・設備等が多数あるため、優先順位を検討して修繕・更新工事を適宜行った。</p> <p>4年間で実施した主な修繕・更新工事は、研究棟外壁漏水補修工事や研究棟ピロティ天井改修工事、風防ガラス修繕、屋上立上部シーリング打替工事、空調制御機器等の修繕のほか、電話交換機の更新、自家発電機蓄電池交換工事など多岐にわたった。</p>	うち洋雑誌	53	52	51	30	H28	H29	H30	R1	61	66	62	2,108			
うち洋雑誌	53	52	51	30														
H28	H29	H30	R1															
61	66	62	2,108															